

I. 森林環境の維持向上

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
奈良県森林環境管理士資格取得者数(人)	0	40 / (R6)	40	◎
奈良県森林環境管理作業士資格取得者数(人)	0	20 / (R6)	50	○
混交林への誘導整備面積 (ha)	-	227 / (R6)	1,100	○
森林面積に対する森林経営計画策定率 (%)	9	5	16	▲
木材生産量 (万m3/年)	16.1 (A材: 9.4, B材: 2.2, C材: 4.5)	14.9 (A材: 5.3, B材: 2.5, C材: 7.1)	20 (A材: 11, B材: 2, C材: 7)	▲

【直近値における達成状況】(以降の環境指標についても同様)
◎: 目標値を達成 ○: 基準値から前進 ▲: 基準値から後退、又は変化なし

1. 新たな森林環境管理体制の構築・推進

- 奈良県フォレスターアカデミーの設置・運営
→奈良県森林環境管理士・奈良県森林環境管理作業士の養成
- 奈良県フォレスター制度の確立
【奈良県フォレスターの任命者数: ◎10人 / ◎24人】
- 新たな森林環境管理を担う人材の確保
→新規林業就業者の確保・育成・定着への支援
【新規就業者数: ◎1126人 / ◎1~◎5148人】



奈良県フォレスターアカデミー開校式

2. 災害に強い森林づくり

- 森林施業の促進
→施業放置林の解消、混交林化（恒続林化・自然林化）の推進
- 災害予防・復旧
→紀伊半島大水害以降に発生した主な山地災害箇所の復旧
【山地災害復旧箇所: ◎13箇所 / ◎17箇所】

3. 持続的に森林資源を供給する森林づくり

- 森林経営計画作成の促進
→森林所有者、森林組合、林業事業者などによる計画策定について支援
- 生産基盤の強化
→作業システムの効率化及び機械化の推進、路網整備の推進
【林内路網密度: ◎18.7m/ha / ◎19.5m/ha】
- 木材搬出の促進
→大規模集約化団地からの木材搬出の促進
【大規模集約化団地数: ◎15件 / ◎19件】

4. 生物多様性が保全される森林づくり

- 生物多様性の保全・再生
→森林病害虫の防除対策・ニホンジカ生息密度の適正化など

5. 森林のレクリエーション機能の強化

- レクリエーションの場づくり・森林レクリエーションの機会づくり
→森林をフィールドとしたイベントの開催・森林環境教育の推進

総括

○奈良県フォレスターアカデミーを開校し、森林環境管理士・森林環境管理作業士を養成するなど森林環境管理体制の整備が進んでいる。今後も森林を管理する豊富な知識・技術を備えた人材の継続的な育成が求められる。

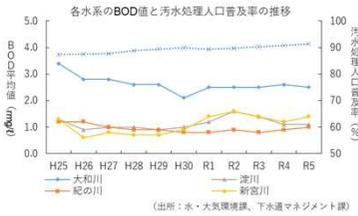
○施業放置林を対象に混交林化（恒続林化・自然林化）の整備が進んでいるが、目標値には未達。森林の混交林化は、森林の4機能（森林資源生産・防災・生物多様性保全・レクリエーション）を高度に発揮させることから、さらなる整備が求められる。

II. 健全な水循環の構築

環境指標	進捗		評価		
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況	
水系毎の環境基準達成率 (%)	大和川水系	90.5	95.2 /	100	○
	淀川水系	46.4	85.7 /	100	○
	紀の川水系	100	100 →	100	◎
	新宮川水系	55.6	81.8 /	100	○
水源かん養保安林の面積 (%)	63,243	64,589 / (R6)	68,831	○	
地域の河川サポート事業参加団体数 (団体)	178	158 / (R6)	197 (R6)	▲	

1. 水質の維持・改善

- 生活排水対策の推進
→公共下水道の整備・接続促進
→合併浄化槽の整備・適正な維持管理の促進
【汚水処理人口普及率: ◎89.3% / ◎91.3%】
- 大和川の水質改善
→公共下水道の整備・接続促進
【大和川水系の下水道普及率: ◎85.5% / ◎87.4%】
→合併浄化槽の整備・適正な維持管理の促進
【単独浄化槽数(大和川流域24市町村): ◎61,273基 / ◎58,572基】
【法定検査の受検率(大和川流域): ◎13.0% / ◎15.5%】
→重点対策支川の対策促進
「大和川重点対策支川部会」の設置・運営
(大和高田・広陵エリア及び大和郡山・斑鳩・安堵エリア)



(出所: 水・大気環境課、下水道マネジメント課)

2. 水量の確保と保水力の維持・向上

- 都市・農村における保水力の向上
→ため池の多面的機能の活用
【ため池利用による治水対策量累計: ◎1,415,466m³ / ◎1,622,228m³】
→奈良県平成緊急内水対策事業等による雨水貯留浸透施設の整備
【雨水貯留浸透施設による治水対策量累計: ◎163,639m³ / ◎321,815m³】

3. 水利用の適正化

- 県域水道の一体化推進
→令和6年度11月企業団の設立、令和7年度4月事業統合。

4. やすらぎの水辺空間の整備

- 環境イベントの実施
→大和川一斉清掃、「奈良県の日・川の日、山と川の月間」関連イベントなど



大和川一斉清掃 (R7.3) 「山」と「川」の学校 (R6.7.8)

総括

○環境基準達成率は改善傾向。また、大和川流域を中心に公共下水道や合併浄化槽の整備が着実に進んでいる。引き続き、目標達成に向け、浄化槽の適正な維持管理の促進等の生活排水対策等による水質の維持・改善が求められる。

○河川等の環境整備において、河川美化活動を行う団体が減少傾向である。水辺空間の整備は、その周辺の生態系の保全や水を大切に利用するという意識喚起にも繋がるため、その担い手を増やすことが求められる。

III. 景観の保全と創造

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
小庭(エリア)の整備着手数(エリア)	51	56 / (R6)	66 (R5)	○
担い手への農地集積率 (%)	17.5	21.4 /	34.0 (R15)	○
県管理道路の無電柱化事業着手延長(km)	約17	約19 /	約19	◎
景観づくりのルールを締結する地区等の数(地区)	180	180	195	▲
県土に占める自然公園面積の割合 (%)	17.2	17.2 →	17.2	◎

1. 「なら四季彩の庭」づくり

- 奈良県植栽計画の推進
→【シンボルマークの設置エリア(箇所): ◎1~◎6 35 (◎1~◎6 57)】



シンボルマーク

シンボルマークの設置例

→植栽アドバイザー派遣による技術的支援
→公式インスタグラム、情報誌、フラワーラベル配布等による普及啓発

2. 歴史的景観の保全と活用

- 奈良公園周辺の魅力向上・環境改善
→瑜伽山園地の開園及び古城園周辺の宿泊施設の開業など
- 歴史的風土特別保存地区内の土地買入・管理
【土地の買入れ面積累計: ◎456ha / ◎480ha】



開園した瑜伽山園地

3. 田園・里山景観の形成と活用

- 荒廃農地の発生防止
→【耕作放棄地再生利用面積累計: ◎47.3ha / ◎50.8ha】
- 農地及び農業用施設の保全管理
→市町村補助を通して、保全管理活動や植栽による景観づくりを促進

4. 都市景観の創造

- 幹線道路の屋外広告物対策
→【掲出禁止交差点周辺における不適格な屋外広告物数: ◎33件 / ◎23件】

5. 自然景観の保全と再生

- 自然環境の保全・再生
→春日山原始林保全計画に基づき、植生保護柵設置、ナラ枯れ対策
- 森林施業の促進
→再掲 | 森林環境の維持向上参照

総括

奈良の豊かな自然・歴史資源の保全・活用を図るべく、施策を推進。現計画の基本理念の体現に向け、「なら四季彩の庭」づくりや屋外広告物対策等に関する取組など一定の進捗が見られる。今後も、自然・歴史的景観等の保全や活用を通じ、これらを守ること・未来へつないでいく事が必要となる。

IV. 脱炭素社会の構築

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
温室効果ガス排出削減率（%） 【基準年：H25】	16.3%減 (H29)	26.8%減 (R4)	45.9%減 (R12)	○

※森林吸収量を含む

1. 温室効果ガスの排出削減

- 省エネ・節電等の推進
 - ⇒「奈良の省エネスタイル」の推進
【県内の電力使用量：② 6,648,269千kWh / ⑤6,612,558千kWh】
 - ⇒奈良県庁ストップ温暖化実行計画の推進
（第5次計画R3～R7 ※目標値35%減(基準年H25)）
【奈良県庁における温室効果ガス排出量削減率：
① 33.8%減 \ ④29.6%減】

○再生可能エネルギーの活用

- ⇒家庭・事業所等の自立分散型エネルギーの導入促進
住宅等での太陽光発電設備の導入と併せた蓄電池の設置等を支援
【県補助件数累計：① 2,241件 / ⑥ 3,456件】

○自動車等の移動発生源対策

- ⇒エコカーの導入促進
【県公用車636台中101台がエコカー（R6.11末時点）】
- ⇒交通円滑化対策の推進
周遊観光バス「ぐるっとバス」の運行、パークアンドライドの実施

2. 二酸化炭素吸収源の整備

- 健全な森林の整備（※再掲 | 森林環境の維持向上参照）

○県産材の需要拡大

- ⇒【県産材住宅の助成件数（累計）：① 985件 / ⑥ 1,536件】

3. 気候変動への適応

- 県内における気候変動影響への適応
【農業・林業・水産業分野】
森林病害虫の防除対策（再掲 | 森林環境の維持向上）
水田貯留施設の整備・公設試験研究機関等による研究開発の促進等
【水環境及び水資源分野・水産業分野】
環境用水の導入検討・促進
【自然生態系分野】
野生動物の保護と管理等（VII. 生物多様性の保全等参照）
【自然災害分野】
ため池の多面的機能の活用、雨水貯留浸透施設の整備
土砂災害防止に係る普及啓発の実施等
【健康分野】
熱中症予防対策等の周知・啓発
【産業・経済活動分野】
「奈良の省エネスタイル」の推進、家庭・事業所等の自立分散型エネルギーの導入促進等
- 適応の推進体制の構築
⇒地域気候変動適応センターの設置（R7.1）



熱中症予防に関するチラシ

総括

○温室効果ガス排出削減率（R4）は、26.8%減であり、2030年の目標達成（45.9%減）に向けて施策をより加速させることが必要。脱炭素社会の構築には、経済活動や生活行動に「環境への配慮」を実践できる仕組みが重要で、「環境と経済の両立」の視点が求められる。

○適応策の推進には、分野横断的な取組が必要不可欠。そのための情報収集・整理、分析及び情報発信拠点として地域気候変動適応センターを設置。今後は気候変動影響調査・適応に関する調査・発信が求められる。

V. 循環型社会の構築

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
一人1日あたりのごみの排出量 （一般廃棄物）（g/人・日）	905	841 /	821 (R9)	○
一般廃棄物のリサイクル率（%）	16.2	15.7 \	19.3 (R9)	▲

※R5.3策定の奈良県廃棄物処理計画により目標値が変更

1. 廃棄物の排出抑制の促進

- 事業者の自主的取組の促進（排出抑制・減量化）
 - ⇒県庁舎における環境マネジメントシステムの推進
【奈良県庁ストップ温暖化実行計画による廃棄物発生量：
①8.5%減 / ⑤19.8%減(25年度比)】

○食品ロス削減への対応

- ⇒奈良県食品ロス削減推進計画に基づく取組の推進



○ごみの排出抑制のための経済的手法の導入促進

- ⇒ごみ処理有料化の推進

2. 廃棄物の循環的利用の促進

- 各種リユース・リサイクルの促進
⇒奈良県リサイクル認定製品の普及拡大等

○廃棄物系バイオマスの有効利用の促進

- ⇒畜産堆肥の生産・流通促進、排出事業者の研究開発・設備導入への支援等

3. 廃棄物の適正処理の推進

- 排出事業者責任の徹底
⇒建設解体工事等の適正実施の指導・啓発等の強化等

○優良処理業者の育成

- ⇒優良産業廃棄物処理業者認定制度の普及促進
【認定件数 ① 219件 / ⑥ 295件】

4. 廃棄物の不法投棄・不適正処理の撲滅

- 使用済家電等の不適正処理対策の推進
⇒奈良県使用済家電等対策連絡会による対策推進
【使用済家電の不法投棄発生台数：① 398 / ⑤ 200】

○不法投棄の撲滅に向けた啓発の推進

- ⇒「不法投棄ゼロ作戦」推進キャンペーン
⇒環境パトロール・「環境の日」街頭キャンペーン
クリーンアップならキャンペーンの実施等



環境パトロール出発式（R6.6）

5. 災害廃棄物処理対策の推進

- 「奈良県災害廃棄物処理計画（H28.3策定）」に基づき、「奈良県災害廃棄物連絡会」を設置し、「奈良県災害廃棄物処理緊急支援要員」を任命するなど、大規模災害に備えた体制整備を推進。
【R4～6：県・市町村合同による教育・訓練実施：基礎研修、ワークショップ、図上訓練】

6. 県・市町村の連携・協働（奈良モデル）による施策推進

- ごみ処理広域化の促進
⇒H28「奈良モデル」補助金制度を創設・施行
R5「さくら広域環境衛生事務組合」において新たな広域施設が竣工するなど、R12の一般廃棄物処理施設数14施設に統合を目標に広域化を推進。

総括

○一般廃棄物のリサイクル率は目標に向け改善傾向にあるものの、全国平均（①19.5%）より低い状況。持続可能な社会の構築に向け、排出抑制及び3 R等に関連する施策の推進が求められる。

○使用済家電の不法投棄は減少傾向にあり、産業廃棄物の不法投棄発生件数も同様の動き（①80件 / ⑥47件）であるが、撲滅には至っていない。今後は、監視体制・啓発活動の継続が必要。

VI. 安全な生活環境の確保

主な環境指標	進捗		評価		
	基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況	
大気環境基準達成率（%）	二酸化硫黄（SO ₂ ）	100	100 →	100	◎
	二酸化窒素（NO ₂ ）	100	100 →	100	◎
	一酸化炭素（CO）	100	100 →	100	◎
	浮遊粒子状物質（SPM）	100	100 →	100	◎
	光化学オキシダント（Ox）	0	0 ※ →	測定数値に対する迅速な対応、情報提供を行う	▲
	微小粒子状物質（PM2.5）	100	100 →		◎
公害苦情件数（騒音、振動、悪臭等）（件）	160	195 \	件数の減	▲	

※光化学オキシダント（Ox）の環境基準は、全国的には達成困難な状況

1. 大気環境の保全対策

- 大気汚染物質対策
⇒大気汚染物質の常時監視（上記「主な環境指標」参照）
- 光化学オキシダント及び微小粒子状物質（PM2.5）対策
⇒光化学スモッグ注意報等の迅速な対応
「奈良県光化学スモッグ緊急対策要領」を定め、光化学オキシダント濃度の基準値を超えた場合は直ちに県関係機関、市町村、報道機関等に通知
⇒PM2.5対策
常時監視を実施。国策定の指針に基づき、PM2.5が高濃度となる異常時に注意喚起を発令 ※これまでに発令事例はなし

○酸性雨対策

- ⇒酸性雨モニタリング調査【雨水のpH年平均値：① 4.90 / ⑥ 5.10】

2. 生活環境の保全対策

- 化学物質対策
⇒ダイオキシン類のモニタリング調査
⇒PCB廃棄物等の適正処理の促進
⇒アスベスト対策
大気汚染防止法に基づく届出のあったアスベスト除却作業現場に対し、労働基準監督署と連携して立入検査を実施
【立入検査件数：②38件 ③38件 ④21件 ⑤16件 ⑥36件】

○騒音対策

- ⇒自動車騒音の常時監視
【環境基準達成率：①99.7% ②92.6% ③91.3% ④95.4% ⑤98.4%】

○土地の改変に係る監視・指導

- ⇒衛星画像による改変箇所の確認・民間委託による関係課合同パトロール等の実施

○放射線モニタリングの実施

- ⇒放射線量の常時監視（県内4箇所）を実施。測定結果は国・県のHPで公表

3. 環境保全の基盤的スキームの推進

- 環境影響評価制度の推進
⇒環境影響評価の実施 【③廃棄物焼却施設（奈良市） 配慮書手続完了】
- 環境に関する調査研究の推進
⇒公設試験研究機関等における調査研究 等

総括

○大気汚染物質について、光化学オキシダントを除き環境基準を達成。光化学オキシダント及び微小粒子状物質（PM2.5）については、今後も引き続き常時監視及び注意喚起を行う体制を継続することが必要。

○生活環境の保全対策や環境影響評価制度の推進は、安全な暮らしを守るための基本的な施策であり、今後も関連法令に基づく、適切な対応が求められる。

VII. 生物多様性の保全

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5 (R6)	目標値 R7	達成状況
特定希少野生動植物の指定数（種）	12	11 (R6)	20	▲
混交林への誘導整備面積（ha）	-	227 (R6)	1,100	○
ニホンジカの捕獲数（頭/年）	(メス) 5,462 (オス) 4,115 (性別不明) 179	(メス) 5,791 (オス) 4,391 (性別不明) 114	(メス) 6,000 (オス) 4,000	○
環境にやさしい農業シンボルマーク 認証団体数	49	49 (R6)	52	▲
エコファーマー及びみどりの食料シ ステム法認定のべ認証者数（人）	912	1006 (R6)	950	◎
「なら生物多様性ネットワーク」参 画団体数（団体）	87	87 (R6)	90	▲

1. 生物多様性の保全と再生

- 重要地域の保全
 - ⇒生物多様性に配慮した鳥獣保護区の指定
【鳥獣保護区：⑥21地区（38,548ha）】
 - ⇒世界遺産及びユネスコエコパーク内の原生的な自然林保護
大台ヶ原において、ニホンジカの食害による下層植生や後継樹の喪失を防ぐため、ニホンジカの防鹿柵を設置（環境省から受託事業）
- 野生動植物の保護と管理等
 - ⇒県希少野生動植物保護条例等による規制・指導、普及啓発
【保護管理事業計画の策定：③コサナエ】
 - ⇒天然記念物の保護（特別天然記念物カモシカによる食害対策など）
 - ⇒地域と連携した外来種防除の推進
【アライグマ捕獲数：①1,654 / ⑥2,224】
 - ⇒「サクラ見守り隊ボランティア隊員」の募集【R6：160名の隊員活動】
※特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害拡大の防止目的
 - ⇒「奈良県レッドリスト・レッドデータブック」改訂作業着手

2. 生態系サービスの持続可能な利用

- 農林水産業における取り組み
 - ⇒環境に優しい農業に取り組むエコファーマー認定の推進
 - ⇒カワウの個体数調整及び防除対策
【水産被害量：①8.1t / ⑤4.9t】

3. 生物多様性を活用した地域の活性化

- 希少野生動植物等の調査・保全活動を通じた地域の活性化
 - ⇒ヤマトサンショウウオやカツラギギミ等の特定希少野生動植物について、保全活動団体等と連携しながら、生息確認調査やDNA調査などを実施

4. 生物多様性を支える基盤づくり

- 多様な主体による連携・協働の推進
 - ⇒「なら生物多様性ネットワーク」の活動促進
 - ⇒景観・自然環境課を生物多様性センターに登録

総括

野生動植物の保護と管理、外来種防除など進捗がみられるが、生物多様性の重要性を普及・啓発する項目では未達項目もあり。引き続き、生物多様性の損失をくい止め回復させる施策や中長期的な視野での科学的知見の集積、普及啓発、多様な主体との連携・協働の取組推進が求められる。

VIII. 人づくり・地域づくりの推進

主な環境指標	進捗		評価	
	基準値 R1	直近値 R5 (R6)	目標値 R7	達成状況
奈良県フォレスターの任命者数 （人）	-	24 (R6)	25	○
森林環境教育指導者養成研修受講 者数（人）	4,793	5,937 (R6)	6,400	○
ストップ温暖化推進員の委嘱者数 （人）	201	246 (R6)	270	○
観光入込客数（万人）	4,502	3,991 (R6)	5100	▲
環境の保全を図る活動に関する地 域貢献サポート基金補助事業数 （件）	29	56 (R6)	53	◎
環境をテーマにしたビジネス モデル認定件数（件）	76	81 (R6)	88	○
地方公共団体実行計画を策定した 市町村の割合（%）	56.4 (R4)	76.9	100	○

1. 環境を学ぶ機会づくり

- 環境教育・環境学習の推進
 - ⇒ストップ温暖化推進員養成講座の開催【R3～6実績：8回開催】
 - ⇒環境アドバイザー、CO2削減アドバイザー等の派遣
 - ⇒花と緑に親しむ講習会等の機会提供
【花と緑に親しむ講習会：R6開催数15回 参加人数256名】

○啓発イベントの実施

- ⇒「奈良県山の日・川の日、山と川の月間」関連イベント
- ⇒奈良県環境県民フォーラムによる啓発活動
- ⇒「奈良の省エネスタイル」の推進
- ⇒不法投棄ゼロ作戦の推進（再掲）
- ⇒野外活動プログラム等の推進 等

2. 環境への取り組みを通じた「地域づくり」の推進

- 麗（うるわ）しい奈良県づくりの推進
 - ⇒重点プロジェクト「大和川きれい化」、
「奈良らしい景観づくり」の推進
 - ⇒優良実践者の表彰
 - ⇒広報誌等による情報発信



麗（うるわ）しい奈良県づくり功労賞
表彰式（R7.1）

○奈良県環境県民フォーラムの活動促進

- ⇒機関誌の発行
- ⇒普及啓発活動の実施
【環境に優しいお買い物キャンペーン、エコクッキング教室等】
- ⇒構成団体等の実践活動などの情報交流

- 景観・環境の魅力化による新たな観光の創出
 - ⇒奈良県植栽計画（なら四季彩の庭づくり）の推進（再掲）
 - ⇒「歩く・なら」観光の推進 等

- 優れた歴史文化遺産を活用した景観・環境づくりの推進
 - ⇒奈良県植栽計画（なら四季彩の庭づくり）の推進（再掲）
 - ⇒平城宮跡歴史公園の整備
 - ⇒世界遺産等の活用・保全 等



クリーンアップならキャンペーン出発式
（R6.11）

- 関係団体等の自主的・主体的な活動の促進
 - ⇒親切・美化奈良県民運動の推進
 - ⇒多様な主体の連携・協働による実践活動の促進 等

総括

講習会や啓発イベント等を通じた環境を学ぶ機会づくり、実践団体等の取組を通じた地域づくりを促進。一方、今後の人口減少に伴う環境保全の担い手減少が想定される事を踏まえると、これらの取組の将来世代へ持続可能な形で継承が課題。今後、その視点も意識した人づくり、地域づくりが求められる。

奈良県環境総合計画（2021-2025）点検・評価概要について

I. 森林環境の維持向上

指標設定の趣旨	環境指標	進捗		評価	
		基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
森林環境管理士・森林環境管理作業士の養成の状況を評価する指標として活用	奈良県森林環境管理士資格取得者数（人）	-	40 (R6)	40	◎
	奈良県森林環境管理作業士資格取得者数（人）	-	20 (R6)	50	○
奈良県フォレストの市町村配置の状況を評価する指標として活用	奈良県フォレストの任命者数（人）	-	24 (R6)	25	○
森林環境管理を担う人材の確保の状況を評価する指標として活用	林業の新規就業者数（人）	126 [H27~R1]	148 [R1~R5]	285 [R3~R7]	○
施業放置林の解消への取組を評価する指標として活用	混交林への誘導整備面積（ha）	-	226 (R6)	1,100	○
伐採届（皆伐）等の審査・指導等の強化を評価する指標として活用	伐採届（皆伐）の現地調査実施の割合（転用・線下伐採を除く）（%）	不明	100	100	◎
山地災害の早期復旧を評価する指標として活用	紀伊半島大水害以降に発生した主な山地災害（25箇所）の復旧箇所（箇所）	13	17	23 ※未完了1	○
森林経営計画策定の進捗を評価する指標として活用	森林面積に対する森林経営計画策定率（%）	9	5	16	▲
	森林経営計画等に基づく森林施業面積（ha/年）	3,768	2,432	6,800	▲
生産基盤の強化度合いを評価する指標として活用	高性能林業機械等の導入台数（台）	57 (H30)	63 (R5)	80	○
	林内路網密度（m/ha）	18.7	19.5	20.4	○
木材搬出促進を評価する指標として活用	航空レーザ測量計測成果解析面積（km2）	126	1,866 (R6)	2,020	○
	大規模集約化団地数（件）	15	19 (R6)	24	○
生物多様性の保全に繋がる取組を評価する指標として活用	木材生産量（万m3/年）	16.1 (A材：9.4 B材：2.2 C材：4.5)	14.9 (A材：5.3 B材：2.5 C材：7.1)	20 (A材：11 B材：2 C材：7)	▲
	素材生産の生産性（m3/人・日）	3.0 (H30)	3.2 (R4)	3.6	○
	混交林への誘導整備面積（ha）	-	226 (R6)	1,100	○
ニホンジカの生息密度の適正化の取組を評価する指標として活用	特定希少野生動物の指定数（種）	12	11	20	▲
	ニホンジカの捕獲数（頭/年）	(メス) 5,462 (オス) 4,115 (性別不明) 179	(メス) 5,791 (オス) 4,391 (性別不明) 114	(メス) 6,000 (オス) 4,000	○
森林の利用者数を評価する指標として活用	自然公園等の利用者数（千人/年）	13,655	10,970	16,000	▲
	奈良県植栽計画（「なら四季彩の庭」づくり）の事業着手エリア数（森林・里山分野）（箇所）	23	23 (R6)	／	▲
イベント等の活用を評価する指標として活用	体験学習（森の学校）への参加者数（人）	-	2,208 (R3~R6)	5,600 (R3~R7)	○

II. 健全な水循環の構築

指標設定の趣旨	環境指標	進捗		評価		
		基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況	
清らかで安全な水環境を評価する指標として活用	水系毎の環境基準達成率（%）（達成箇所数/測定箇所数）	大和川水系	90.5 (19/21)	95.2 (20/21)	100	○
		淀川水系	46.4 (13/28)	85.7 (24/28)	100	○
		紀の川水系	100.0 (5/5)	100 (5/5)	100	◎
		新宮川水系	55.6 (5/9)	81.8 (9/11)	100	○
生活排水対策の進捗を評価する指標として活用	汚水処理人口普及率（%）	89.3	91.3	95.1	○	
水源の保水能力を評価する指標として活用	水源かん養保安林の面積（%）	63,243	64,589 (R6)	68,831	○	
きれいな水辺空間づくりの取組を評価する指標として活用	地域の河川サポート事業参加団体数（団体）	178	158 (R6)	197 (R6)	▲	
	大和川一斉清掃の参加人数（人）	8,452 (H30)	2,376 (R6)	10,000 (R6)	▲	

III. 景観の保全と創造

指標設定の趣旨	環境指標	進捗		評価	
		基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
歴史文化交流拠点としての奈良県の魅力を評価する指標として活用	小庭（エリア）の整備着手数	51	56	66	○
	観光入込客数（万人）	4,502	3,991	5,100	▲
田園・里山の景観を守る取組を評価する指標として活用	担い手への農地集積率（%）	17.5	21.4	34.0 (R15)	○
都市景観の向上を評価する指標として活用	都市計画区域内人口1人あたりの都市公園面積（m ² /人）	13.8	14.1	14.45 (R4)	○
	県管理道路の無電柱化事業着手延長（km）	約17	約19	約19	◎
	景観づくりのルールを締結する地区等の数（地区）	180	180	195	▲
自然景観を守る取組を評価する指標として活用	見丘陵公園来園者数（万人/年）	111.2	93.9 (R6)	120 (R6)	▲
	県土に占める自然公園面積の割合（%）	17.2	17.2	17.2	◎

IV. 脱炭素社会の構築

指標設定の趣旨	環境指標	進捗		評価	
		基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
温室効果ガスの削減対策の進捗を評価する指標として活用	温室効果ガス排出削減率（%）〔基準年：H25〕	16.3%減 (H29)	26.8%減 (R4)	45.9%減 (R12)	○
	森林環境教育指導者養成研修受講者数（人）	4,793	5,679	6,400	○
省エネ・節電の取り組みの進捗を評価する指標として活用	ストップ温暖化推進員の委嘱者数（人）	201	246 (R6)	270	○
	年間電力使用量低減率（%）（基準年：H26）	7.4	7.1 (R3)	3.5%を維持 (R3)	◎
再生可能エネルギー導入の進捗を評価する指標として活用	県内電力使用量（千kWh）	6,720,226 (R3)	6,612,558	6,197,311 (R6)	○
	再生可能エネルギー導入量（kW）	532,391	696,917	721,000 (R6)	○
二酸化炭素吸収源となる森林整備の進捗を評価する指標として活用	木質バイオマスエネルギー利用量（t）	46,127	55,099	59,000	○
	混交林への誘導整備面積（ha）	-	226	1,100	○
二酸化炭素吸収源となる森林整備の進捗を評価する指標として活用	県民等の募金による植樹の本数（本）	10,386	10,781 (R6)	11,000	○

【直近値における達成状況】
 ◎：目標値を達成
 ○：基準値から前進
 ▲：基準値から後退、又は変化なし

※個別計画の見直し等により目標値の変更があった場合、変更後の目標値を記載しています。

V. 循環型社会の構築

指標設定の趣旨	環境指標		進捗		評価	
			基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
ごみの減量化を評価する指標として活用	ごみの排出量	一人1日あたりのごみの排出量(一産)(g/人・日)	905	841	821(R9)	○
		産業廃棄物排出量(千t)	1,474(H27)	1,433(R2)	1,433(R9)	◎
	認知度	食品ロス問題をよく知っている人の割合(%)	37.4	54.9(R6)	90(R6)	○
		リサイクル率	一般廃棄物(%)	16.2	15.7	19.3(R9)
	産業廃棄物(%)		42.1(H27)	41.7(R2)	44.8(R9)	▲
一般廃棄物処理の広域化を評価する指標として活用	一般廃棄物処理施設数		21	18	14(R12)	○

VII. 生物多様性の保全

指標設定の趣旨	環境指標		進捗		評価	
			基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
希少な野生動物の保護管理の状況を評価する指標として活用	希少な野生動物の指定数(種)		12	11	20	▲
生物多様性保全の取り組みを評価する指標として活用	混交林への誘導整備面積(ha)		0	226(R6)	1,100	○
	ニホンジカの捕獲数(頭/年)	(メス)	5,462	5,791	(メス)	6,000
		(オス)	4,115	4,391	(オス)	
		(性別不明)	179	114	(性別不明)	4,000
	環境にやさしい農業シンボルマーク認証団体数(団体)		49	49	52	▲
エコファーマーのべ認証者数(人)		912	1,005	950	◎	
「なら生物多様性ネットワーク」参加団体数(団体)		87	87	90	▲	

VI. 安全な生活環境の確保

指標設定の趣旨	環境指標		進捗		評価	
			基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
きれいな大気が保たれているかを評価する指標として活用	大気環境基準達成率(%) (達成箇所数/測定箇所数)	二酸化硫黄(SO ₂)	100(11/11)	100(9/9)	100	◎
		二酸化窒素(NO ₂)	100(12/12)	100(11/11)	100	◎
		一酸化炭素(CO)	100(5/5)	100(2/2)	100	◎
		浮遊粒子状物質(SPM)	100(14/14)	100(12/12)	100	◎
		光化学オキシダント(Ox)	0(0/8)	0(0/8)	測定数値に対する迅速な対応、情報提供を行う	▲
		微小粒子状物質(PM _{2.5})	33.3(9/9)	100(9/9)	100	◎
生活環境の保全対策の状況を評価する指標として活用	ダイオキシン類の環境基準達成率(%)		100(9/9)	100(8/8)	100	◎
	公害苦情件数(騒音、振動、悪臭等)(件)		160	195	件数の減	▲

VIII. 人づくり・地域づくりの推進

指標設定の趣旨	環境指標		進捗		評価	
			基準値 R1	直近値 R5	目標値 R7	達成状況
人材育成の取り組みを評価する指標として活用	奈良県フォレストターの任命者数(人)		-	24(R6)	25	○
	森林環境教育指導者養成研修受講者数(人)		4,793	5,937(R6)	6,400	○
	馬見丘陵公園花サポーター(花緑ボランティア)登録者数(人/年)		47	56(R6)	70	○
	ストップ温暖化推進員の委嘱者数(人)		201	246(R6)	270	○
歴史文化交流拠点としての奈良県の魅力を評価する指標として活用	観光入込客数(万人)		4,502	3,991	5,100	▲
県民・事業者・行政の積極的な取組と連携・協働を評価する指標として活用	景観づくり活動を実施している景観サポーター数(人)		48	48	55	▲
	環境の保全を図る活動に関する地域貢献サポート基金補助事業数(件)		29	56(R6)	53	◎
	環境をテーマにしたビジネスモデル認定件数(件)		76	81	88	○
	地方公共団体実行計画を策定した市町村の割合(%)		56.4(R4)	76.9	100	○

【直近値における達成状況】
 ◎：目標値を達成
 ○：基準値から前進
 ▲：基準値から後退、又は変化なし

※個別計画の見直し等により目標値の変更があった場合、変更後の目標値を記載しています。